

幼児期における多様な動きの経験や運動量の確保を目指した遊びの工夫を行った実践例

実施園名 西根児童センター（山形県）
 全校幼児数 53名（男児23名 女児30名）
 （本事例に係る問合せ先）
 電話番号 0238（88）5767
 メールアドレス shidoushujinagai-ed.jp

1 研究のねらい

○幼児期における多様な動きの経験や運動量の確保を目指した運動遊びの工夫・継続的实施により、幼児の多様な身体能力の向上を図るとともに、運動への関心を高め、楽しさの体感を目指す。
 ○運動習慣の形成、好ましい生活習慣の形成を図り、ライフスタイルの改善と体力向上を図る。

2 研究の概要

幼児期の体力・運動能力の変容や向上に関する知識不足、運動遊びの内容面でのバランスの欠如、運動遊びの工夫改善の必要性が指摘されてきた。また、運動への関心を高める、望ましい生活習慣を形成するための取り組みを、幼児期から開始する必要性も感じていた。委員会では、運動量の確保のための手立て、多様な動きを経験するための運動プログラムや場の設定の検討、実践指導講習会の開催、体力測定の実施方法、望ましい生活習慣の形成を図るためのしかけづくり等について検討してきた。運動器具や遊具を設置し、遊びの中での多様な動きの経験、運動量の確保を目指し環境整備に努めた。体力測定の結果をもとにして運動プログラムを検討し、継続的に実施してきた。また、専門の先生を招聘しての各種講習会も実施してきた。こうした実践の検証については、体力測定、映像による動きの変化の把握、保護者や職員の声、調査等により行ってきた。

○実践プログラムの紹介

□ 体を動かす機会の確保

1 全園児による運動遊びの時間の設定



サーキット型コースの設定
（平均台ゾーン）



遊び別のコース設定
（ジャンプゾーン）



年少児～年長児が
一緒に活動に参加



待ち時間も有効に
活用して運動遊び

2 保護者の参加を募っての講習会の実施



お母さん、おばあちゃんと
一緒にいか焼き（模倣運動）



保護者の協力による
運動遊びの実施

*園の週日課に全園児による運動遊びの時間を設定。日によって、週によってコース等を工夫、変化させながら継続的に実施。
 *運動器具、遊具等が安全で、園児も持ち運びできるタイプなので、職員の観察の下、年長児がリーダーシップを発揮して準備や後片付け、コースを設定。異学年集団と運動遊びを行いかかわり合うことで、社会力の育成にもつながった。
 *保護者参加型の講習会の実施により、家庭でも取り組んでみようとする保護者が出てきた。また、共通の運動遊び（ダンス等）があるため、子どもが家庭において、「一緒にしよう」と誘う声が出てきた。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 幼児用の安全が確保された遊具、運動器具を設置し、事故の未然防止、環境整備に努めてきた。
- 2 各セクションに必ず職員を配置し、指導・観察のもとで運動遊びを実施してきた。また、安全に実施できるよう約束の確認・徹底を図ってきた。学生等の協力者へも配慮をお願いしてきた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 今まで以上に運動が好きで、関心を持って活動に取り組む園児、長時間楽しみながら、夢中に運動する園児が増加した。遊具の準備等を率先して行う、自分たちで運動遊びを考案するなど意欲的な姿も見られた。多様な動きの獲得や体を動かすための場の設定、時間の確保等が大変有効であった。
- 2 運動習慣の形成を目指し継続的に運動遊びを実施することで、昼食や午睡、睡眠へのプラスの効果も見られた。今後は、保護者への啓蒙活動等を行い、意識向上に努めていく必要がある。

○研究内容

【全園児による運動遊びの時間】
全園児と一緒に運動遊びをする時間を設定



【2回の体力測定の実施（7種目）】
学生等の協力による測定と個人へのフィードバック



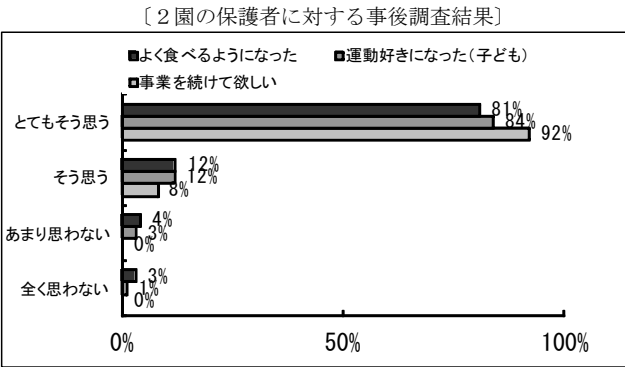
【多様なコース設定による運動遊び】
サーキット型や遊び別コースの設定による活動



【保護者参加型の運動遊び講習会】
ダンスリズム運動遊びを保護者参加で実施



【保護者の意識の変化】
事後のアンケートや感想からの保護者の意識の分析



〔保護者からの感想〕

- 運動遊びのある日は、普段よりよく食べるようになった。残飯も少なくなった。
- いろいろな遊びができ楽しそうです。家でもできることを一緒にしてみたい。親子共々感謝している。来年度も絶対続けて欲しい！
- 児童センターで活動してきたことを話し、その動きを家で見せてくれるようになった。

事後調査結果や保護者からの感想からも、大きな成果を上げることができたと考える。

【継続実施と職員による工夫・開発】
運動プログラムの継続実施と職員による工夫・開発

- 本事業により実施してきた実践プログラムを継続実施し、経年的な変化を見ていく。
- 職員による主体的なかかわりを大切にして運動遊びを継続実施し、運動へのさらなる関心を高め、楽しさの体感を目指す。
- 来年度の新規事業にも継続参加し、事業における市の保育施設の中核的な役割を担って実践を進めていく。